

羽田空港のこれから



飛行経路を見直し、 2020年に向け国際線の 増便を図ります。

進化を遂げながら日本の成長を支えてきた羽田空港と成田空港は、急速なグローバル化に伴い、今まで以上に玄関口としての機能を果たしていくことが求められています。しかし、羽田空港は現在フル稼働しており、現状のままでは増便が図れない状況にあります。様々な方策を検討した結果、滑走路の運用・飛行経路を見直すことで、1日に約50便の増加が可能であると分かりました。この新しい飛行経路については、各地域で説明会を開催し、多くの方々のご意見を伺ってまいりました。その上で、頂いたご意見も踏まえ環境への影響等に十分配慮しながら、2020年に向けた国際線増便のための取り組みを進めてまいります。そのような取り組みについて、より多くの皆様に分かりやすい情報発信を引き続き行ってまいります。



Q1

国際線の増便にはどんなメリットがあるのですか？

海外からビジネスや観光などでの訪日が増え、首都圏だけでなく全国を元気にします

羽田空港の国際線が増便されることで、ビジネスや旅行の幅が広がります。人やモノの流れが活性化され、年間約6503億円の経済波及効果や、約4.7万人の雇用増加等が期待できます。



しかし現在、羽田空港は深夜・早朝の時間帯を除いてフル稼働。このままでは国際線を増便することはできません。

Q2

どのようにすれば便数が増えるのですか？

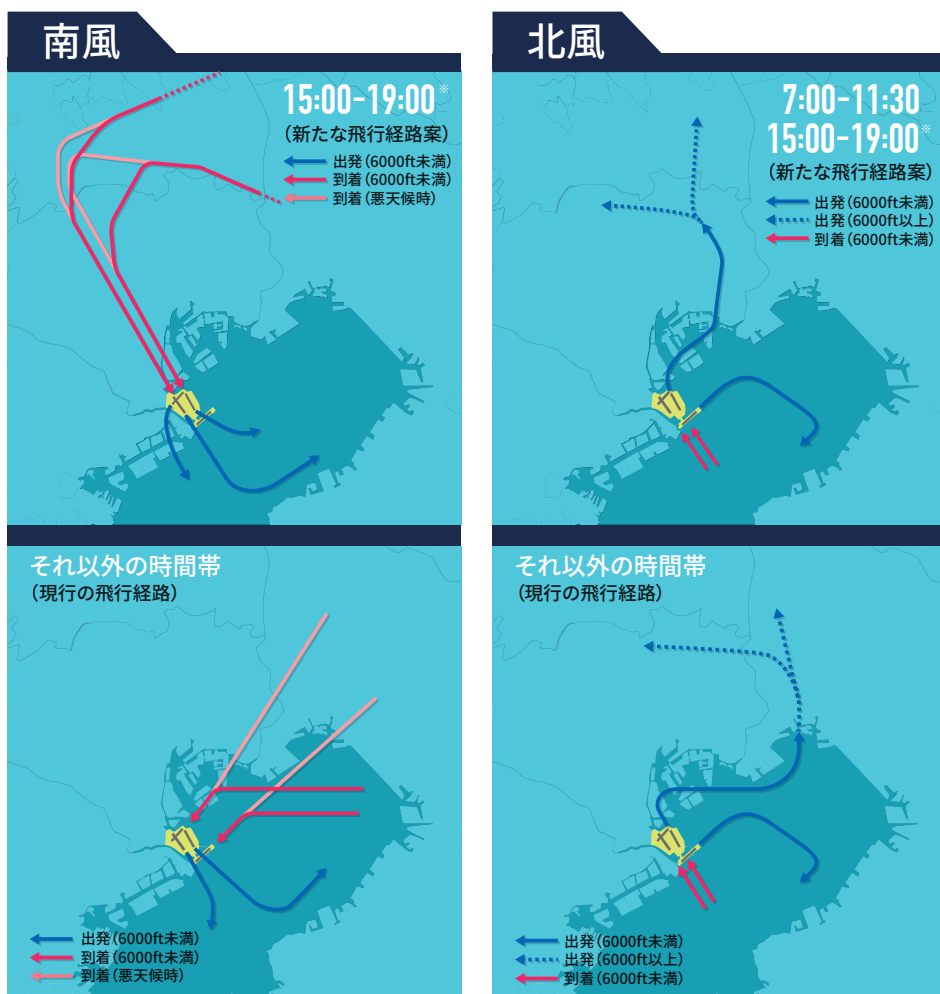
滑走路の使い方・飛行経路を見直すことにより国際線の便数を増やすことができます。

東京湾上空は大変混雑しており、仮に新しい滑走路を作ったとしても、発着回数はほとんど増やすことはできません。新しい滑走路を作らなくても、滑走路の使い方を見直し、これに合った飛行経路を設定することで、発着回数を増やすことができます。

POINT

南風と北風が多くみられる羽田空港では、風向きに合わせて2通りの滑走路の使い方があります。それぞれについて、より効率的な使い方を検証しました。

※15時～19時については、4時間のうち実質3時間程度の運用



滑走路の使い方・飛行経路などを見直すことにより、深夜・早朝時間帯以外の国際線について、最大で年間約3.9万回(約1.7倍)の発着回数の増加が可能となる試算となります。

数字で見る 羽田空港

(2017年のデータより)

国内線



利用客

1日約

181,000人



発着数

1日約

1,000回



就航先

48

都市

国際線



利用客

1日約

43,000人



発着数

1日最大約

220回



就航先

18

力国

31

都市

Q3

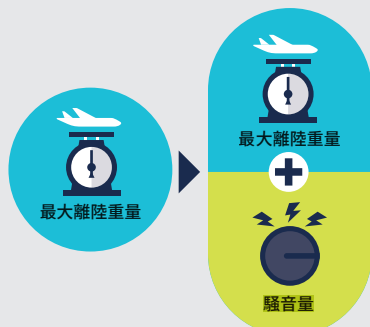
騒音と安全確保のための対策は？

皆様から多様な意見を伺った上で、
2016年7月に環境影響等に配慮した方策を策定し、
その具体化に取り組んでいます。

騒音影響低減のための主な方策



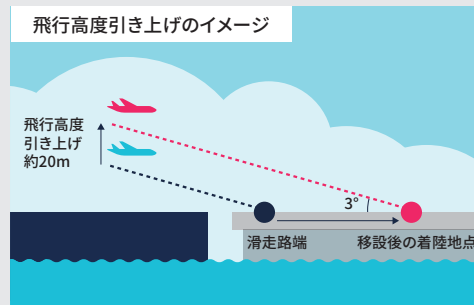
更なる低騒音機導入の促進



羽田空港の国際線着陸料について、低騒音機の導入を促進するため、従来の航空機の重量のみに基づく料金体系から重量と騒音の要素を組み合わせた料金体系へ見直しを行い、平成29年4月より実施しています。



南風時の新しい到着経路の高度引き上げ



南風時の新飛行経路の着陸を開始する高度をより高くしたところですが、さらに、着陸地点を南側に移設することによって、着陸前の最終直線部の高度を引き上げます。



騒音測定の実施、モニタリング結果の提供



羽田空港の飛行経路については、16箇所の騒音測定局を設置し結果を東京航空局のホームページで公開しています。新しい飛行経路についても、騒音測定局を新たに10局程度増設を計画しており、結果を分かりやすく情報提供してまいります。



防音工事の実施



住宅防音工事が
必要となるような
音の影響の範囲

(「環境影響等に配慮した方策」
織り込み後)

多面的な方策を講じることで、住宅の防音工事が必要となるような音の影響が生じないことが明らかとなりました。空港至近の経路付近にある教育施設等について、皆様からのご意見を踏まえ、現行の防音工事の助成制度を拡充します。

And More...



南風時の
各滑走路の
使用便数の調整



北風時の
現行到着経路に係る
富津沖海上ルート
の更なる活用



北風時の
新しい出発経路の
運用時間の見直し
6:00-10:30⇒7:00-11:30

様々な方策を実施することで、
環境影響等を可能な限り小さくするよう配慮いたします。

NEXT



安全確保のための主な方策



航空機の安全対策の強化



外国の航空会社に対しては、所属国の航空当局が、国際基準に基づき、安全監督を実施しています。国際基準を満たしていなければ、我が国の空港に乗り入れることはできません。外国航空機を含め、安全監督等に引き続き万全を尽くすとともに、航空会社に対して安全対策の徹底を要請していきます。



落下物対策の強化



落下物を防止するため、外国の航空会社も含め、整備・点検の徹底を厳しく指導していきます。また、航空会社による整備・点検に加え、国の職員が駐機中の機体を抜き打ちでチェックし、航空機メーカー、外国の航空会社との情報共有を強化し、未然防止策のさらなる徹底を図ります。さらに、落下物の原因者である航空会社（国内外問わず）に対して、処分等を行う方針とし、補償の充実も図っていきます。

安全の確保は、すべてに優先します。
関係者一同、高い緊張感を持って
日々の安全対策にあたっています。

日本の経済・社会にとって、重要な役割を担う羽田空港。
私たちや次の世代が、より豊かな生活を実現するために、
羽田空港の成長は欠かせません。
2020年に向けた「羽田空港のこれから」について、
出来るだけ多くの方に知っていただき、ご理解を頂けるよう、
正確でわかりやすい情報提供に引き続き取り組んでまいります。

お問い合わせ窓口



WEBSITE

国土交通省ホームページに特設ページを設けています。

<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

羽田空港のこれから

検索



TELEPHONE

電話でのお問い合わせは

Tel 0570-001-160

IP電話からは **03-5908-2420**

『国土交通省「羽田空港のこれから」に関する電話窓口』
受付時間：平日9:30～19:00（12/30～1/3を除く）



国土交通省

